

はじめに

第2期日韓歴史共同研究委員会は、2005年6月20日の日韓首脳会談によって設立が合意され、その後の一連の準備過程を経て、2007年6月23日に発足した。第2期の委員会のなかで第1分科会は日韓両国における古代の日韓関係史の学説と解釈の現状と問題点を共同で調査・研究することを目的としている。

この第1分科会は、日韓双方3名ずつ計6名の委員で構成され、第1期では研究期間の問題から検討を及ぼせなかった時代を主たる対象とすることにした。その結果、考古学が対象とする時代から古代末の9世紀末にまで日韓関係史の対象を長く見るようになった。「古代日韓関係の形成と変遷」という大テーマを設定して、これを(1)3世紀以前、(2)4～6世紀、(3)7～9世紀に分けて共同研究することにした。

およそ2年半の間に、まず研究課題と分科会の運営方法を定めたのち、計17回の合同分科会を開催した。そのなかで日韓の各委員は、おおむね予定通りに各課題を検討し、その成果を報告しあい、討議を進めてきた。

研究期間の終了を控えた2009年8月には、各委員がそれぞれの課題をめぐる問題を提起して座談会を開いた。このほかに、合同分科会の開催地において、研究テーマに深く関わる史跡、遺跡、考古・文字資料について、現地の研究者の協力を得て共同調査と意見交換をおこなった。こうした共同研究と調査を通じた積極的な意見交換により、相互に日韓の学説の現状や問題点について認識と理解を深めることができた。

本報告書は、こうして推進した2年半の共同研究の成果として、各委員個人の調査・研究の成果としての論文と座談会記録、そして活動記録を取りまとめている。古代の日韓関係史の学説は、文献・考古研究者の日々の研鑽によって、緩やかではあるが進歩しており、この研究報告は両国における研究の現段階を整理したものとなっている。歴史と文化のみならず学術の各分野で学術の交流は進んでいる。そのなかで歴史分野の研究は国家や民族の意識から自由に進められることを望みたい。

本報告書が、古代の日韓交流の歴史に関心をもたれる多くの人々に活用されることにより、日韓両国における交流史への関心と研究がさらに進展し、歴史認識の相互理解が深まることとなれば幸いである。

最後に、この2年半の間、共同研究会の開催と遺跡と資料の調査に協力してくださった両国の諸機関ほか多くの方々に謝意を表したい。また、事務局として第1分科会のここまでの運営に献身的に努力してくださった日本側の財団法人日韓文化交流基金、そして韓国側の韓日歴史共同研究委員会事務局の方々に深く感謝申し上げる次第である。

2009年11月28日

日韓歴史共同研究委員会

第1分科会

日本側委員

濱田耕策

坂上康俊

森 公章

韓国側委員

盧 泰 敦

金 泰 植

趙 法 鍾

日韓歴史共同研究委員会 全体写真 (2009年11月28日、ソウル)



第1分科会委員 全体写真 (2009年11月28日、ソウル)



日韓歴史共同研究委員会

第1分科会委員

日本側委員

濱田耕策	九州大学大学院人文科学研究院 教授
坂上康俊	九州大学大学院人文科学研究院 教授
森 公章	東洋大学文学部 教授

韓国側委員

盧 泰 敦	ソウル大学校人文大学 教授
金 泰 植	弘益大学校師範大学 教授
趙 法 鍾	又石大学校師範大学 教授

目次

はじめに

目次

論文

濱田耕策	古代日韓関係の成立 —地域間の交流から古代国家の関係へ—	1
趙法鍾	古代韓日関係の成立 —弥生文化の主体問題についての検討—	47
森公章・濱田耕策	古代王権の成長と日韓関係 —4～6世紀—	89
金泰植	古代王権の成長と韓日関係 —任那問題を含んで—	187
坂上康俊・森公章	古代東アジア国際秩序の再編と日韓関係 —7～9世紀—	301
盧泰敦	古代東アジア国際秩序の再編と韓日関係 —7～9世紀—	397
座談会記録		457
活動記録		499
共同研究を終えて（所感）		507

論文

濱田耕策	古代日韓関係の成立 —地域間の交流から古代国家の関係へ—	1
趙法鍾	古代韓日関係の成立 —弥生文化の主体問題についての検討—	47
森公章・濱田耕策	古代王権の成長と日韓関係 —4～6世紀—	89
金泰植	古代王権の成長と韓日関係 —任那問題を含んで—	187
坂上康俊・森公章	古代東アジア国際秩序の再編と日韓関係 —7～9世紀—	301
盧泰敦	古代東アジア国際秩序の再編と韓日関係 —7～9世紀—	397